# 令和８年度　立川市立第四小学校　授業改善推進プラン

| 学校の教育目標 | ○みんなとつくる　◎みんなとつたえあう　○みんなとみとめあう |
|---|---|

| 児童に育成を目指す資質・能力 | 複数の教科や学年全体に共通する取組 |
|---|---|
| ○主体性、思考力・判断力・表現力<br>○見通しをもち、最後までやりぬく力<br>○生きて働き、活用できる各教科の基礎的・基本的な知識や技能の習得 | ・児童がより主体的に取り組み、考えるための手だてと価値付けのある授業づくり<br>・カリキュラム・マネジメントの充実<br>・一人１台のタブレットPCを活用した授業づくり |

| 教科 | 教科で育成を目指す資質・能力 | 資質・能力を育成するための具体的な取組（学習活動など） |
|---|---|---|
| 国語 | ○自分の考えが相手に分かるように伝える力<br>○考えを表現したり、文章を理解したりするために必要な言語力<br>○叙述を基に、文章を読み解く力 | ・文章を書いたり、言葉で表したりする機会を増やし、友達と伝え合うことを通して身に付けられるようにする。低学年では主語と述語の関係やまとまりを意識して伝えること、中学年では相手や目的に応じて伝えること、高学年では構成を考えて明確に伝えること等、発達段階に応じたきめ細かな指導を行う。<br>・主語と述語の関係や修飾関係をおさえることに加え、辞書を活用し、語彙の拡充を図り、言語力を高めさせる。<br>・読書活動を充実させ、本に親しむ時間を確保する。<br>・文章の中で、自分の考えの理由になるところにサイドラインを引かせ、根拠をはっきりさせる、行動や会話文に注目させるような発問を工夫する。 |
| 社会 | ○方位や地図記号、都道府県名等の基礎的・基本的な知識を習得し、活用する力<br>○社会的事象を既習事項や生活経験と関連付け、多角的に考える思考力<br>○各種資料から必要な情報を読み取り、自分の言葉で整理・表現する力 | ・授業での定期的な振り返りや、宿題・帯時間等と連動した反復練習により、基礎的・基本的な知識の確実な定着を図る。<br>・既習事項や生活経験と結び付く意図的な発問や資料提示を工夫し、児童自らが問いを見いだせるようにするとともに、段階的なヒントや具体的な視点を与えて考えを深めさせる。<br>・情報のまとめ方のモデル（テンプレート）を示し、教科書の丸写しを防ぐために「めあて」に対応したキーワードで情報を抽出・整理・図化する手法を指導する。<br>・児童が自ら整理した情報や自分の言葉で表現した考えを共有する場を意図的に設け、互いに伝え合う活動を充実させる。 |
| 算数 | ○数のしくみ、計算力、単位、図形の名前、特徴等の基礎的・基本的な知識や技能<br>○問題解決への見通しをもち、思考の過程を表現する力<br>○新たに身に付けた知識・技能をもとに根拠をもって統合的・発展的に考える力 | ・個に応じた四則演算の技能の定着を図るよう、四小タイム等を活用して継続的に計算の演習問題に取り組めるようにする。また、単元の復習テストを実態に応じて行う。<br>・問題場面を把握するため、図に表す習慣を身に付けさせ、図を基に立式できるようにする。授業の中で互いの考えを共有、説明する時間を確保する。<br>・問題解決に必要な条件を見いだし、それを式として表現、適切に使うことができる力を伸ばしていけるような課題を設定する。<br>・自分の考えを表現しやすくなる言葉を教室掲示するなどして対話の推進を図る。 |
| 理科 | ○見通しをもって観察、実験を行うための基本的な技能<br>○理科の見方・考え方を働かせて観察、実験等を行い、問題を科学的に解決する力 | ・各学年で取り扱う実験器具や用具の名称や正しい使い方を指導するとともに、全員が実験器具に触れる機会と時間を確保し、技能の習得を図る。<br>・既習内容や日常的な事象を根拠に予想を立て、ノート等に記述するよう指導する。<br>・自分が考えた予想を交流する場を設定し、一人一人がより根拠を明確に考えられるようにする。<br>・予想を立てる際は、観察や実験で検証可能なものかという視点をもたせ、予想が正しければどのような結果になるかも考えさせることで、児童が見通しをもって観察・実験の計画を考えられるようにする。 |

| | | |
|---|---|---|
| 生活 | ○身近な自然やもの、人々や地域との関わりを通して、観察・調査・製作・遊びなどの活動に必要な知識・技能<br>○対象の特徴やよさ、変化などについて、気付いたことや考えたことを比較したり関連付けたりしながら表現する力<br>○意欲的に活動し、活動の幅を広げたり深めたりしながら、主体的に学び続けようとする力 | ・身近な自然やもの、人々や地域との関わる体験活動を充実させ、実物や実体験を通して、特徴や変化に気付けるようにする。<br>・生活経験の差を補えるよう、多様な体験の機会を設ける。<br>・観察や体験で気付いたことを比較したり関連付けたりしながら考え、ICT や絵・文章・発表など多様な方法で表現させ、友達と伝え合う活動を充実させる。<br>・児童の興味・関心を広げたり深めたりできるよう、十分な活動時間を確保するとともに、多様な活動の場を設定する<br>・振り返りを通して次の課題を見いだす機会を設定する。 |
| 音楽 | ○音楽を理解する力と表現するための基礎的な技能<br>○主体的に音楽に関わり、思いをもって表現したり、音楽のよさを見付けて、味わって聴いたりする力 | ・楽譜に記されている内容、既習内容などからの「気付き」や音楽を聴いて「感じ取ったこと」を題材と結び付け、互いに共有しながら楽曲への理解を深めていく。<br>・学習の基礎・基本については常時活動を通して定着を図るとともに、技能については学習形態を工夫し、学習の時間を確保する。<br>・学習に見通しをもてるようなワークの活用、学びの選択や振り返りを生かした取組、表現や言葉での伝え合い等を通して、個々の思いを他者と共有し、学びを深めていくことができるようにする。 |
| 図画工作 | ○対象や材料の特徴を捉え、基本的な用具や材料を適切に扱う技能<br>○造形的な特徴や材料等を基に、発想や構想をし、自分の思いをすすんで表す力 | ・様々な用具の基本的な扱い方を身に付けたり、材料選択の経験を積み重ねたりすることで、発想や構想する力を伸ばす。<br>・形や色、材料の質感、手や体全体を働かせる感覚等を意識して活動できるように促すことで、造形的な視点に興味をもたせ、表したいことや表し方等について考えられるようにする。<br>・自分や友達の思い、表現を共有する場面を設定し、互いに認め合いながら、思いを広げたり、表したいものを表したりできるようにする。 |
| 家庭 | ○学習した内容を家庭生活に生かす力<br>○生活をよりよくしようと工夫する力 | ・授業で身に付けた知識を日常生活に活用できるように、家庭での連携を図り、実践計画を立てられるようにする。<br>・家庭の仕事を継続して行えるように、活動を紹介するなど、児童の学習意欲を高める。 |
| 体育 | ○様々な場面で活用できる基礎的な技能<br>○友達の良い動きや運動についての自己の課題を見付け、思考し判断するとともに、他者に伝える力<br>○自らの運動の課題に意欲をもち、主体的に挑戦する力 | ・年間指導計画を基に、様々な領域の運動をより一層バランスよく経験できるようにする。<br>・授業の導入で、コーディネーショントレーニングを入れるなどして、体の使い方を学ぶ時間を確保する。<br>・動きや技のポイントを見付けて共有する活動や友達の良い動きを見付けたり、考えたりしたことを伝える活動を１年生から積み重ねる。<br>・学習カードを活用し、自己の課題について思考し判断したことを文章で表す活動を積み重ねる。<br>・ICT を活用するなどして、思い通りに体を動かせているか動画で確認したり、それぞれのタイミングでお手本動画を参考にしたりして自分に合った学び方を選択する機会を設ける。<br>・評価規準を児童と共有することで、指導と評価の一体化を図る。 |
| 外国語 | ○簡単な語句や基本的な表現を用いて質問したり、質問に答えたりする力<br>○アルファベットの大文字、小文字を正しく書いたり、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写したりする力<br>○文字を識別し、読む力 | ・単元ごとに関連する英語の歌やグループ、ペアワークなど多様な活動を取り入れ、学習活動に変化をもたせながらコミュニケーションをとる機会を増やしていき、自信をもって会話ができるようにする。<br>・ALT とコミュニケーションをとる時間を設定し、外国語での会話をする時間を確保する。<br>・帯活動として文字の読み書きを取り入れ、アルファベットに親しめるようにする。<br>・ICT で視覚化したり、フォニックスを活用したりして、音と文字を一致させてアルファベットを識別できるようにする。 |